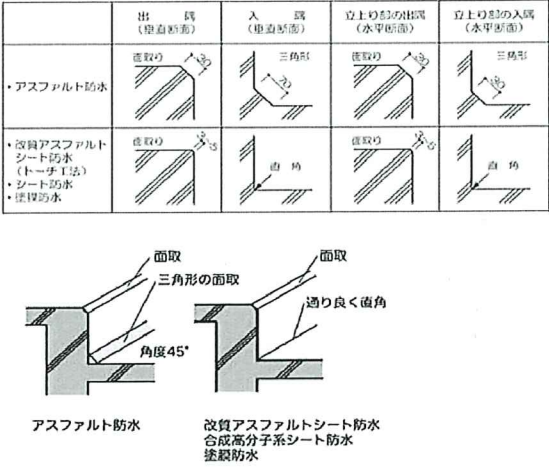


「防水工事, 外装・塗装工事」のピックアップ問題

コード	大項目	小項目	問題	解説	解答
27161	防水工事	下地の形状	アスファルト防水工事において、防水下地の入隅及び出隅については、 <u>通りよく45度の面取り</u> とした。	<p>JASS8 防水層のはく離を防ぎ、防水層を下地へよくなじませるため、入隅は、アスファルト防水層の場合は<u>通りよく三角形の面取り</u>とし、それ以外の防水層では<u>通りよく直角</u>とする。また出隅は<u>通りよく面取り</u>とする。よって正しい。</p> 	○
29163	防水工事	下地の形状	屋根保護防水密着工法によるアスファルト防水工事において、防水層の下地の立上り部の出隅部は <u>面取り</u> とし、入隅部は <u>直角の納まり</u> とした。	<p>JASS8 防水層のはく離を防ぎ、防水層を下地へよくなじませるため、入隅は、アスファルト防水層の場合は<u>通りよく三角形の面取り</u>とし、それ以外の防水層(改良アスファルトシート防水・シート防水・塗膜防水)では<u>通りよく直角</u>とする。また出隅は、防水層の下地へのなじみをよくし、破断しないようにするために<u>面取り</u>とすることが重要である。よって誤り。</p>	×
05163	防水工事	下地の形状	ウレタンゴム塗膜防水工事において、防水層の下地については、入隅を丸面に仕上げ、出隅を <u>通りよく直角</u> に仕上げた。	<p>JASS8 防水層の剥離を防ぎ、防水層を下地へよくなじませるため、入隅は、アスファルト防水層の場合は<u>通りよく三角形の面取り</u>とし、それ以外の防水層では<u>通りよく直角</u>とする。また出隅は<u>通りよく面取り</u>とする。 建築工事監理指針 塗膜防水の下地は、入隅は直角、出隅は丸面または45度とする。 よって誤り。(この問題は、コード「16155, 21162」の類似問題です。)</p>	×
01161	防水工事	下地の形状	合成高分子系シート防水工事において、防水層の下地の入隅部については <u>直角</u> とし、出隅部については <u>45度の面取り</u> とした。	<p>JASS8 防水層のはく離を防ぎ、防水層を下地へよくなじませるため、入隅は、アスファルト防水層の場合は<u>通りよく三角形の面取り</u>とし、それ以外の防水層(改良アスファルトシート防水・シート防水・塗膜防水)では<u>通りよく直角</u>とする。また出隅は、防水層の下地へのなじみをよくし、破断しないようにするために<u>面取り</u>とすることが重要である。よって正しい。(この問題は、コード「18153, 25161」の類似問題です。)</p>	○

下地の形状:

・出隅: 45度の面取り

・入隅: アスファルト防水: 45度の面取り
それ以外: 通りよく直角

↳ 改質アスファルト防水, 塗膜防水, シート防水.

コード	大項目	小項目	問題	解説	解答												
29212	防水工事	ドレン	鉄筋コンクリート造の建築物の屋根スラブに縦形ルーフトレンを取り付けるに当たり、梁との干渉がないことを確認のうえ、ルーフトレンの径が150mmであったので、 <u>あご付きパラペットのあごの垂直面からルーフトレンの中心までの距離が400mm確保されていることを確認した。</u>	JASS8 ドレンや貫通パイプ回りは、防水施工の段階でシート類の補強を行うので、立上りの際に接近していると、これらの作業が不確実になり不具合の原因となるので、これらの施工が確実にできるように、 <u>立上り部からある程度離す</u> 必要がある。よって正しい。 ルーフトレン径とその芯から外壁面までの距離 <table border="1"> <tr> <td>ルーフトレン径 C mm(in)</td> <td>80 (3)</td> <td>100 (4)</td> <td>125 (5)</td> <td>150 (6)</td> <td>200 (8)</td> </tr> <tr> <td>中心距離 L mm</td> <td>325</td> <td>350</td> <td>375</td> <td>400</td> <td>425</td> </tr> </table> 縦引き型ルーフトレン回りの納まり (単位: mm)	ルーフトレン径 C mm(in)	80 (3)	100 (4)	125 (5)	150 (6)	200 (8)	中心距離 L mm	325	350	375	400	425	○ ↓ 解P3
ルーフトレン径 C mm(in)	80 (3)	100 (4)	125 (5)	150 (6)	200 (8)												
中心距離 L mm	325	350	375	400	425												
28163	防水工事	ドレン	アスファルト防水工事で使用する縦引き型ルーフトレンについては、ルーフトレンから雨水排水縦管までの横引き管を短くするため、ルーフトレンをパラペットの立上り部に接する位置に設置した。	JASS8 縦形ルーフトレンをパラペットの立上り部分に接近して取り付けると、ストレッチルーフィングやシート類の切張り補強、シート類の重ね張りが不確実となり、不具合を行う原因になる。したがって、これらの施工が確実にできるように、立上り部からある程度離す必要がある。よって誤り。(この問題は、コード「17151」の類似問題です。)	×												
21164	防水工事	AS防水密着工法	屋根保護防水密着工法によるアスファルト防水工事において、防水層の施工完了後、 <u>絶縁用シートを敷き込み、保護コンクリートを打ち込んだ。</u>	JASS8 屋根保護防水密着工法においては、絶縁用シートは、防水層の完成後の検査を受けた後、重ね幅100mm程度をとって平場に敷き並べ、粘着テープその他を用いて固定し、 <u>保護コンクリートを打設する。</u> よって正しい。	○ 解P4												
03164	防水工事	AS防水絶縁工法	屋根保護防水絶縁工法によるアスファルト防水工事において、 <u>監視者は、平場部の立上り際の500mm程度の部分については、立上り部の1層目のアスファルトルーフィング類がアスファルトを用いた密着張りとなっていることを確認した。</u>	建築工事監視指針 保護防水絶縁工法の立上り部際の500mm程度は、防水工事前アスファルトを用いて、立上り部の1層目のルーフィングを図のように密着張りを行う。よって正しい。 絶縁工法における立上り部際の納まり例	○ ↓ 解P5												

密着工法
一般部: 全面接着
立上り部: 全面接着

絶縁工法
一般部: 部分接着
立上り部: 密着張り (全面接着)

「防水工事、外装・塗装工事」のピックアップ問題

コード	大項目	小項目	問題	解説	解答
04162	防水工事	AS防水絶縁工法	屋根保護防水絶縁工法によるアスファルト防水工事において、一般平場部に砂付あなあきルーフィングを使用する工法としたので、立上り部については砂付あなあきルーフィングを省略した。	建築工事監理指針 絶縁工法は、通常屋上防水に用いられている工法で、一般部分は防水層を下地面に全面密着させず部分接着とし、周辺部および立ち上がり部を密着張りとする。下地の亀裂や継ぎ目の動きによって生ずる防水層の破断を防ぐことができる。立上り部は密着張りとするため、砂付あなあきルーフィングは立上り部には使用しないので正しい。よって正しい。(この問題は、コード「24163、29162」の類似問題です。)	○
19153	防水工事	AS防水絶縁工法	アスファルト防水工事の絶縁工法において、一般平場部の防水層の最下層については、砂付あなあきアスファルトルーフィングを用いた。	JASS8 アスファルト防水工事の屋根露出防水絶縁工法において、一般平場部の最下層には、アスファルトプライマー塗りの後に、粘着層付改質アスファルトシートまたは砂付あなあきアスファルトルーフィングを張り付ける。よって正しい。	○
23161	防水工事	AS防水絶縁工法	アスファルト防水工事の屋根露出防水絶縁工法において、一般平場部の最下層には、アスファルトプライマー塗りの後にストレッチルーフィングを全面にわたって張り付けた。	JASS8 アスファルト防水工事の屋根露出防水絶縁工法において、一般平場部の最下層には、アスファルトプライマー塗りの後に、粘着層付改質アスファルトシートまたは砂付あなあきアスファルトルーフィングを張り付ける。アスファルトプライマー塗りの後にストレッチルーフィングを全面にわたって張り付けるのは密着工法である。よって誤り。	×
17154	防水工事	AS防水材料	アスファルトプライマーについては、火災や人体への影響に配慮して、エマルジョンタイプのもので採用した。	建築工事監理指針 アスファルトプライマーはブローンアスファルト等を揮発性溶剤に溶解したもの、あるいはエマルジョンタイプのアスファルトプライマー(水性アスファルトプライマー)とがあるが、最近では火災、人体等に対する配慮から、従来の溶剤タイプに代えてエマルジョンタイプを使用する機会が多い。ただし、水系であるので、保管には凍結を避ける必要があり、気温の低い箇所での使用では、乾燥時間が長くなる等の気温の制約を受けるので注意する。よって正しい。	○
19225	防水工事	針入度	針入度とは、アスファルト等の粘性物について、一定温度において、針を一定の荷重により一定時間押し込んだときの貫入深さによって、その硬さを表す数値のことである。	JASS8 針入度指数とは、アスファルトの高温時における軟化、低温時における脆化などの起こる度合い、いわゆる感温性を端的に表すものである。この数値が大きいくほど、広い温度範囲にわたって軟化もしくは脆化現象が起こりにくくなり、防水工事用のアスファルトとして好ましい性質を示す。したがって、アスファルト防水の劣化程度を推測するために針入度試験を行なうことは妥当なことである。針入度は3種:20以上40以下、4種:30以上50以下であれば異常なし。よって正しい。	○
25243	防水工事	脱気装置	脱気装置とは、アスファルト露出防水絶縁工法においては、下地面の水分を外気に拡散させ、防水層のふくれを防止する装置のことである。	JASS8 脱気装置とは、下地面の湿気を防水層の外部に排出させる装置のことである。 絶縁工法による露出防水では、太陽熱により加熱されて下地に含まれている水分が気化し、防水層を押し上げて膨れが発生することがあるので、脱気装置により外部に排出させることが有効である。一方、密着工法の場合は、下地と防水層とが全面的に密着しているため、脱気装置により外部に排出させることはほとんど意味がない。よって正しい。	○
20153	防水工事	脱気装置	アスファルト防水工事における屋根保護防水密着工法においては、一般に、防水層のふくれを防止するために、平場部に脱気装置を設ける。	JASS8 脱気装置は、下地に含まれる水分を外気に放出させ、防水層の膨れ防止を積極的に行うためのものである。その材料・種類・取り付け間隔などは、防水材製造業者の指定するものとし、防水層平場では25~100m ² に1個程度を目安とする。防水面積の大きい場合など、必要に応じて立ち上がり部脱気装置を併用する場合もある。 つまり、絶縁工法の露出防水の場合は、下地面の湿気が水蒸気となる際に膨張して防水層が膨れるため、脱気装置を設けて下地に含まれる水分を外気に放出させ、防水層の膨れ防止を行う。一方、密着工法では、下地と防水層が密着しているため、防水層下の空気を逃がすことができないので脱気装置は使用しない。よって誤り。	×
17155	防水工事	脱気装置	アスファルト露出防水の脱気装置については、防水面積が大きかったので、平場部脱気型と立上り部脱気型とを併用した。	JASS8 脱気装置は、下地に含まれる水分を外気に放出させ、防水層の膨れ防止を行うためのものである。その材料・種類・取り付け間隔などは、防水材製造業者の指定するものとし、防水層平場では25~100m ² に1個程度を目安とする。防水面積の大きい場合など、必要に応じて立ち上がり部脱気装置を併用する場合もある。よって正しい。	○

解P5

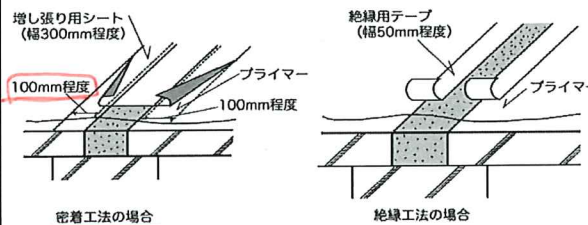
↓
解P6

↓
解P7

「防水工事、外装・塗装工事」のピックアップ問題

コード	大項目	小項目	問題	解説	解答	
16152	防水工事	AS防水 施工法	アスファルト防水工事において、アスファルトプライマーについては、刷毛等でむらなく均一となるように塗布した後、十分に乾燥させた。	JASS8 アスファルトプライマーの塗布は、下地を十分に清掃した後、刷毛などで施工範囲の全面にむらなく均一に塗布し、乾燥させる。よって正しい。	○ ↓ 解P8	
01162	防水工事	AS防水 施工法	アスファルト防水工事において、アスファルトプライマーを刷毛でむらなく均一となるように塗布し、30～60分程度の経過後、一層目のアスファルトルーフィングを張り付けた。	JASS8 アスファルトプライマーの塗布は、下地を十分に清掃した後、刷毛などで施工範囲の全面にむらなく均一に塗布し、乾燥させる。アスファルトプライマーは、塗付後8時間以内で乾燥するが、ルーフィング類の張り付けは、原則として、アスファルトプライマーを塗付した翌日とし、十分に乾燥させることが望ましい。よって誤り。	×	
30162	防水工事	AS防水 施工法	アスファルト防水工事において、平場部の防水層の保護コンクリートに設ける伸縮調整目地の割付けについては、パラペット等の立上り部の仕上り面から600mm程度とし、中間部は縦横の間隔を5m程度とした。	JASS8 成形伸縮目地材は、キャップと本体から構成され、キャップ幅は20mm以上、本体はキャップ幅の80%以上とする。目地材は保護コンクリートの下面から上面にまで達するものとする。成形目地材の種類とキャップ幅は特記による。成形伸縮目地材の割付けは、横・縦の間隔が3m程度と、立上がりパラペット周辺の際および塔屋などの立上がり際から600mm以内の位置とする。成形伸縮目地材は防水層上面の絶縁用シートから保護コンクリート表面に達するものとする。よって誤り。  <p>伸縮目地 (3m間隔程度) 伸縮目地の目地割りと施工例</p>	×	解P10
			解説集 P14 青線囲み部分 ・重ね幅は基本100mm以上 ・例外を覚える P8, P14, P16			
22164	防水工事	AS防水 施工法	アスファルト防水工事において、平場のアスファルトルーフィング類の張付けの重ね幅については、長手及び幅方向とも、100mm程度とした。	JASS8 一般平場のルーフィング類の張付けは、流し張りとする。なお、ルーフィング類の重ね幅は、長手及び幅方向とも100mm程度とし、重ね部からあふれ出した溶融アスファルトは、はけを用いて塗り均しておく。よって正しい。(この問題は、コード「16153」の類似問題です。)	○ 解P8	
19154	防水工事	改質アス ファルト防 水施工法	改質アスファルト防水工事において、一般平場部の改質アスファルトシート相互の重ね幅については、長手方向及び幅方向とも100mm以上とした。	JASS8 改質アスファルトシート相互の重ね幅は、長手・幅とも100mm以上とし、原則として水勾配にさからわないように接合する。よって正しい。	○ 解P11	
02162	防水工事	シート防 水施工法	接着工法による合成高分子系シート防水工事において、監理者は、加硫ゴム系シートの接合幅(重ね幅)については、平場部、立上り面ともに100mmとなっていることを確認した。	JASS8 シート防水の接合 シートの接合部は、原則として水上側のシートが水下側のシートの上になるように張り重ねる。平場のシートの接合幅は加硫ゴム系シートおよびエチレン酢酸ビニル樹脂系シートの場合で(長手方向・幅方向とも)100mm、塩化ビニル樹脂系シートの場合で(長手方向・幅方向とも)40mmとする。ただし、加硫ゴム系シートの立上りと平場の接合幅は150mmとする。立ち上がり部分は150mmであるので誤り。	×	↓ 解P14
18155	防水工事	シート防 水施工法	シート防水において、ルーフィングシート	JASS8 シート防水は、合成ゴム系あるいは合成樹脂系シート1層で防水層をつくる工法で、シートの接合幅は、加硫ゴム系シートおよびエチレン酢酸ビニル樹脂系シートの場合では(長手方向・幅方向とも)100mm、塩化ビニル樹脂系シートの場合では(長手方向・幅方向とも)40mmとする。ただし、加硫ゴム系シートの立上りと平場の接合幅は150mmとする。よって正しい。	○	

「防水工事、外装・塗装工事」のピックアップ問題

コード	大項目	小項目	問題	解説	解答
03161	防水工事	塗膜防水 施工法	ウレタンゴム系塗膜防水工事において、 監理者は、補強布の重ね幅については 50mm以上、防水材の塗継ぎの重ね幅に ついては100mm以上となっていることを 確認した。	JASS8 塗膜防水工事における補強布は下地によくなじませ、耳立ち、しわなどが生じないように防水材で張り付ける。補強布の重ね幅は、50mm程度とする。また、塗重ねは、防水材製造業者の指定する最長時間を越えないものとする。塗継ぎの幅は100mm内外とする。よって正しい。	○ 解 P16
27163	防水工事	塗膜防水 施工法	塗膜防水工事において、防水材塗継ぎの 重ね幅を50mmとし、補強布の重ね幅を 100mmとした。	JASS8 塗膜防水工事における補強布は下地によくなじませ、耳立ち、しわなどが生じないように防水材で張り付ける。補強布の重ね幅は、50mm程度とする。また、塗重ねは、防水材製造業者の指定する最長時間を越えないものとする。塗継ぎの幅は100mm内外とする。よって誤り。 (この問題は、コード「18154、23163」の類似問題です。)	×
03162	防水工事	改質アス ファルト防 水施工法	屋根露出防水密着工法における改質ア スファルトシート防水工事において、監理 者は、プレキャストコンクリート部材の接 合部の目地については、改質アスファ ルトシートの張付けに先立ち、増張り用シ ートを両側に50mm程度ずつ張り掛けた絶 縁増張りが行われていることを確認した。	公共建築工事標準仕様書 改質アスファルトシート防水における「屋根露出防水密着工法」において、プレキャストコンクリート部材の接合部の目地は、改質アスファルトシート張付けに先立ち、増張り用シートを両側に100mm程度ずつ張り掛けて絶縁増張りとする。よって誤り。なお、「屋根露出防水絶縁工法」や「屋根露出防水絶縁断熱工法」の場合は、幅50mm程度の絶縁用テープを張り付ける。  屋根露出防水工法におけるPCコンクリート部材接合部目地部の処理例	×
26162	防水工事	シート防 水施工法	シート防水工事において、合成樹脂系 シートを用いた接着工法については、立 上り部及び平場のシート張付けに先立 ち、出隅角及び入隅角に成形役物を張り 付けた。	建築工事監理指針 出入隅角の処理は、ルーフィングシートの種類により出隅角の処理方法が異なる。 ①『加硫ゴム系(合成ゴム系)シート防水』:シートの張付けに先立ち下地の出隅角に非加硫ゴム系シートを張り付ける。 ②『塩化ビニル樹脂系(合成樹脂系)シート防水』:シートを張付けた後、出入隅角に成形役物を張り付け、その端部はシール材を用いて処理する。 ③『エチレン酢酸ビニル樹脂系シート防水』:シートの張付けに先立ち、出入隅角に成形役物を張り付ける。 設問の「立上り部および平場のシートの張付けに先立ち、出入隅部に成形役物を張り付ける」のは、エチレン酢酸ビニル樹脂系シート防水の方法であるので誤り。	×
01163	防水工事	塗膜防水 施工法	共同住宅において、現場打ち鉄筋コン クリートのバルコニーを塗膜防水とした ので、防水層の塗膜防水材をウレタンゴ ム系とし、その仕上げを仕上塗料とした。	建築工事監理指針 塗膜防水には、屋根、庇、開放廊下、バルコニー等に用いられるウレタンゴム系塗膜防水材と、地下外壁及び屋内に用いられるゴムアスファルト系塗膜防水材がある。また、防水層を紫外線等から保護して耐久性を向上させる目的及び意匠上の目的のために、表面に仕上塗料を塗布する。よって正しい。	○ 解 P15
04163	防水工事	塗膜防水 施工法	ウレタンゴム系塗膜防水工事において、 防水材の塗布による防水層の施工につ いては、立上り部、平場部の順に行った。	JASS8 塗膜防水層の施工は、通常は立上り部、平場部の順に施工する。施工はゴムべら、金ごて、吹付け機械などを用い、気泡やピンホールを生じないように施工する。塗膜防水材は同一箇所を塗継ぎを行わない。よって正しい。	○ 解 P16

「防水工事、外装・塗装工事」のピックアップ問題

コード	大項目	小項目	問題	解説	解答
26214	防水工事	シーリング材料	シーリング工事において、コンクリート部材と金属部材である窓枠まわりの目地については、特記がなかったため、2成分形変成シリコーン系シーリング材を使用した。	JASS8 シーリング材は、原則として、「構法、部位、構成材とシーリング材の適切な組合せ」をもとに種類を選定する。コンクリート部材と金属部材からなる窓枠まわりの目地については、一般に、2成分形変成シリコーン系シーリング材が用いられる。よって正しい。(この問題は、コード「21161」の類似問題です。)	○ 解P20
			シリコーン系: ガラス窓辺部 金属部 →石材にはNG.	2成分はポリウレタン系: コンクリート下地やタイル目地.	
23164	防水工事	シーリング工事	シーリング工事において、鉄筋コンクリート造の外壁の建具枠回りについては、目地底にボンドプレーカーを用いずに、シーリング材を充填する三面接着とした。	JASS8 鉄筋コンクリート造のサッシ回り目地や打継目地のようなコンクリート外壁の各種目地等のノンワーキングジョイントは、目地底に水が浸入したとき水みちとなる二面接着よりも、シーリング材が目地底に接着している三面接着の方が有効である。よって正しい。(この問題は、コード「16154、20151」の類似問題です。)	○ 解P21
29161	防水工事	シーリング工事	シーリング工事において、鉄筋コンクリート造の建築物の外壁に設けるひび割れ誘発目地については、目地底にボンドプレーカーを使用せずに、シーリング材を充填する三面接着とした。	JASS8 コンクリート躯体のひび割れ誘発目地のようなノンワーキングジョイントの場合は、目地底に水が浸入したとき水みちとなる二面接着よりも、シーリング材が目地底に接着している三面接着の方が有効である。よって正しい。(この問題は、コード「26161」の類似問題です。)	○
02164	防水工事	シーリング工事	シーリング工事において、監理者は、ノンワーキングジョイントの鉄筋コンクリート造の外壁の収縮目地については、三面接着となっていることを確認した。	JASS8 コンクリート躯体のひび割れ誘発目地のようなノンワーキングジョイントの場合は、目地底に水が浸入したとき水みちとなる二面接着よりも、シーリング材が目地底に接着している三面接着の方が有効である。よって正しい。	○
27233	防水工事	シーリング工事	アルミニウム製建具の改修工事において、新規建具と鉄筋コンクリート躯体の取合いのシーリングは、目地深さが所定の寸法であり、被着体の挙動が少ないことが確認できたので、ボンドプレーカーを省略し三面接着とした。	公共建築改修工事標準仕様書 建具改修工事において、目地深さが所要の寸法の場合で、動きの小さい建具枠回りは、三面接着とすることができる。よって正しい。	○
03033	防水工事	シーリング目地の構造	シーリング工事におけるバックアップ材は、合成樹脂製でシーリング材に変色等の悪影響の及ぼさず、かつ、シーリング材との接着性がよいものを用いた。	JASS8、公共建築工事標準仕様書 バックアップ材及びボンドプレーカーは、シーリング材と接着せず、またシーリング材の性能を低下させないものとする。なお、バックアップ材は、シーリング材の目地深さを所定の寸法に保持するために目地に装着する成形材料である。使用箇所に適した形状で、裏面に接着剤のついていないものは目地幅より1mm程度小さいもの、接着剤のついていないものは目地幅より2mm程度大きいものとする。また、ボンドプレーカーは、シーリング材を3面接着させない目的で、目地底に張り付けるテープ状の材料である。よって誤り。(この問題は、コード「23034」の類似問題です。)	×
24162	防水工事	シーリング材料	シーリング工事において、やむを得ず種類の異なるシーリング材を打ち継ぐ必要があったので、シリコーン系シーリング材を先打ちし、ポリサルファイド系シーリング材を後打ちした。	JASS8 (3)異種シーリングの打継ぎは原則として避ける。打ち継ぐ場合は、シーリング材製造業者の試験報告書あるいは試験により接着性、硬化性を確認する。 異種シーリングの打継ぎの目安 ①先打ち:シリコーン系の場合、後打ち:シリコーン系のみ OK ②先打ち:変性シリコーン系の場合、後打ち:シリコーン系(LM)と変性シリコーン系は、カットして新しい面を出し、専用プライマーを使用すればOK、そのほかの場合はすべてメーカーの確認を要する。 ③先打ち:ポリサルファイド系、アクリルウレタン系、ポリウレタン系、アクリル系の場合、後打ち:ほぼ各種のシーリング材が可能(メーカーの確認を要するものもあり) よって誤り。	×
			シーリングの打ち継ぎ →原則NG. 先打ちシリコーン系 :後打ちシリコーン系のみ 先打ちポリサルファイド系 :後打ちはお好み程度自由.		解P22

- ノンワーキングジョイント(3面接着)
 - ・コンクリート目地(打継目地、誘発目地、コンクリートと建具枠まわりの目地)、石目地、タイル目地
- ワーキングジョイント(2面接着)
 - ・上記以外(ガラスまわり目地、外装パネル(カーテンロール等)の目地、鉄骨造の建具まわりの目地)